

緑のこみちの会

緑のこみちの会は、平成11年に生まれました。当時、墓地の周りは万年堀で囲まれ、殺風景な雰囲気であり、防災や防犯上の課題もありました。そこで当時のまちづくり協議会が14年にわたって東京都に生垣化を要望し、今のような生垣や墓地内に歩道状空地がある「墓地周りの道」が出来上がったのです。(詳しい経緯はホームページのまちづくりの成果で見ることができます。)

この生垣を守り育てるために組織されたのが、緑のこみちの会です。毎月第4土曜日に、生垣の管理のみならず、墓地周りの道の清掃、草取り、生垣の足元やフェンスに花苗を植えるとともに、所定の空墓地にプランターを置くなどの緑化を推進する活動を行っています。

豊島区と長く協働で活動していますが、と同時に東京都公園協会からの助成もいただき、墓地内の休憩スペースの周辺の管理も任されています。平成26年12月に、雑司が谷地域一帯として日本ユネスコ協会連盟の「未来遺産」に認定された理由の一つに緑のこみちの会の活動もあげられています。このような背景もあり、より一層、活動に力が入っています。会員募集中です。

東日本大震災から5年

復興まちづくりは普段のまちづくりの延長線

私は、復興支援のため昨年4月より、豊島区から気仙沼市役所へ派遣されています。

気仙沼市は、東日本大震災で繰り返し押し寄せる大津波と、津波で流された船舶用の燃油タンクから流失した石油による火災で、甚大な被害を受けました。街中を覆い尽くした瓦礫が姿を消してからだいぶ時間がたち、復興事業も日に日に進展していますが、震災から5年を経過した現時点でも、復興は道半ばです。

市内の主要3地区では、盛土・嵩上げのうえ土地区画整理事業を実施中ですが、盛土もまだ半分程度で、先行したごく一部の街区で引き渡しが始まったものの、すべての土地の引き渡しには、あと3年もの時間が必要です。現在、土地区画整理事業の地区を

市内の鹿折（しおり）地区に打ち上げられた漁船。2012年7月撮影
その後、市民アンケートの結果を受け、2013年秋に撤去された。



緑のこみちの会、会員募集

会では会員を募集中です。あなたの力で雑司が谷の緑を育ててください。

参加をご希望の方は、事務局まで連絡ください。若い方大歓迎です。

- 作業日: 毎月第4土曜日9:30~
- 集合: 霊園内の資材保管所前の水のみ場・ベンチのあるところ
- 事務局: まち処計画室
電話: 03-5875-1672

まちづくりニュース
2016・3
通算79号

ぞうじがや
<http://zoshigaya.org>

- 企画/発行
雑司が谷・南池袋
まちづくりの会
- 事務局・連絡先
豊島区地域まちづくり課
事業第1グループ
03-3981-0489

注目

まちづくりの最新情報は
ホームページ

新たな防火規制がはじまります

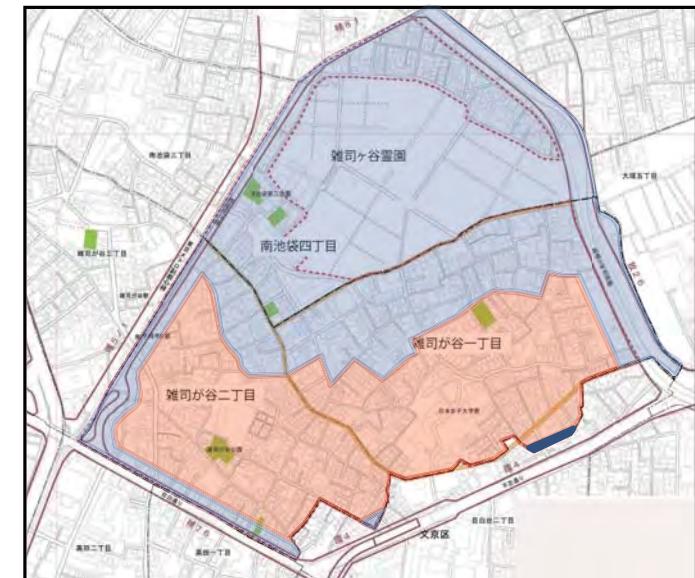
東京都では、都内でも災害危険が高い木造密集地域の安全性を高めるために、「木造密集地域不燃化10年プロジェクト」に取り組んでいます。雑司が谷地区も対象地区に選定され、さまざまな対策が進められています。対策の大きな柱は、「不燃化特区」と「新たな防火規制」。不燃化特区とは地域内で建築しようとする方に助成金を差し上げながら燃えない建物を増やしていくという制度です。そして「新たな防火規制」とは燃えにくい建物にしていただくための建築制限を定める制度です。

雑司が谷地区では、平成27年1月及び5月に「新たな防火規制・不燃化特区助成制度」の説明会を行い、事業への理解を求めると共に、その内容をお知らせしました。その後、区では、平成27年度から不燃化特区を開始し、助成をおこなっています。平成27年9月30日に新たな防火規制の区域の指定の告示がされ、平成28年3月31日から施行されます。

新たな防火規制は右図の準防火地域が対象です。この地域では、500m²未満で2階建ての建物は木造モルタルなどの防火造が認められていました。しかし、平成28年4月からは準耐火建築物か耐火建築物にしなければなりません。準耐火建築物は木造でもできますが。防火のための措置を講じなければなりません。詳しくは事務局にお問い合わせください。

地区内ではさまざまな事業が行われます。分かりにくいかもしれませんが、一体となって地区のまちづくりをすすめる事業となります。

平成27年4月から行われているのが不燃化特区です。これは地区内で燃えにくい建物を建てる方への



防火地域

- ・雑司ヶ谷霧園周辺地区
- ・都市計画道路の沿道
自白通り 沿道 20m
不忍通り 沿道 30m
環状5の1号線 沿道 20m

準防火地域

- ・雑司が谷1～2丁目
(防火地域の範囲を除く)



新たな防火規制の範囲

助成制度です。新たな防火規制は燃えにくい建物にするように規制する制度で、今年の3月31日に施行されます。燃えにくい建物をふやすだけでなく、雑司が谷らしいまちづくりを進めるのが居住環境総合整備事業です。やはり4月から開始されます。

	平成27年度	平成28年度	平成32年度
不燃化特区(助成制度)	H27年度～H32年度まで		
新たな防火規制	9/30告示	H28・3・3 1 施行	
居住環境総合整備事業	整備計画策定	●事業導入	

どんぐりプロジェクト

子どもたちが育てる まちづくりの芽

南池袋小学校でかわいいプロジェクトがはじまりました。「どんぐりプロジェクト」です。このプロジェクトは、旧高田小跡地の公園計画の中にどんぐりの森が計画されていたところから話が始まりました。

南池袋小学校の中村雅子校長先生は、学校と地域の結びつきを教育方針のひとつにあげています。子供たちが地域の伝統・文化を受け継ぎ、地域の行事に積極的に参加し、地域に学び地域に発信する環境づくりに取り組んでいます。伝統・文化を受け継ぐことについては、お会式のまといやすすきみみずくづくりを行っています。昨年、雑司が谷地区がユネスコ未来遺産に登録された理由のひとつとして、これらの子どもたちの活動があげられました。

昨年1月に、まちづくりの会の清田会長が講師と

地域に愛着をもてるように

今、南池袋小学校では「伝統と文化を学び、発信していこう」という活動を全校で取り組んでいます。昨年12月13日（日）には、5・6年生の代表児童が「雑司が谷未来遺産1周年記念植樹式」に参加させていただきました。地域や日本の伝統・文化を自分たちの手で受け継いでいこうという思いは、これらの体験を含めた学習活動により、日々を追うごとに高まっています。

先日行った校内のアンケート調査によると、5・6年生で「日本の良いところを海外の人に伝えたい」と回答した人は97.5%にのぼります。ふだん

なって、地域のまちづくりの歴史や今取り組んでいる高田小跡地の公園計画について説明をする機会をいただきました。その場で公園の主役は子どもたちですから、是非、参加してほしいと呼びかけました。

南池袋小学校では、公園づくりにどのような参加の方法があるかを検討していました。公園計画ではどんぐりの森ゾーンがあります。その森に、子供たちがどんぐりから育てた苗木を植えようということになりました。南池袋小学校ではもともと環境教育にも積極的に取り組んでいます。早速、5年生を中心になり2年生も手伝って、学校内のみみずくの林で集めたアラカシのどんぐりを植えました。

育った苗木を公園に植えるのはまだ先の話。その頃には5年生は卒業しています。植樹の時には中学生になった子どもたちにも参加してもらって同窓会にしようというアイデアも出ました。

学校と地域とのつながりをつくる取り組みのひとつとして、まちづくりの芽が育っています。



どんぐりの植え付け

多くの地域の方々にご協力いただきながら、学習活動を進めることができた結果だと思います。本当にありがとうございます。

また、雑司が谷という地域にもっと愛着をもつてほしいという願いから「どんぐりプロジェクト」をスタートさせました。旧高田小学校の敷地内に出来る公園に、南池袋小学校で育てたアラカシの木を植樹しようという計画です。子供たちがこれからもずっと「雑司が谷」というふるさとを愛し続けられるように学習を進めていきたいと思っています。

南池袋小学校 地域連携担当 前田充栄

南池袋小のとりくみ・あれこれ

すすきみみずくと纏

豊島区の郷土玩具であるすすきみみずくを受け継ぐために、毎年作り方を教わっています。

また、お会式の纏の練習もしています。



すすきみみずくの作り方を教わる授業



纏の練習

まちづくりの勉強

昨年1月30日に、雑司が谷南池袋まちづくりの会の清田会長とコンサルタントが4年生に特別授業を行いました。4年生は総合の授業でバリアフリーについて勉強しており、街のバリアフリーを勉強する一環として地域のまちづくりについて知りたいとお声をかけていただいたものです。

学校の前の東通りには昔は歩道がなくて歩くのに苦労していたので、歩道をつけたいと地域の人たちが区や警察と協議して歩道をつけたことや、雑司が谷墓地の廻りが昔は万年堀に囲まれていたのを、地域の人ががんばって生垣にしてもらい、今でも毎月掃除や花の管理をしていることなどをお知らせしました。

雑司が谷は、人の顔がみえる安全で安心、人にやさしいまちなので、その良さをいかした「雑司が谷らしい」まちづくりを進めていきたいとお話ししました。



清田会長の講義



まちづくりについての授業

雑司が谷未来遺産1周年記念植樹式

昨年12月13日、鬼子母神参道の雑司が谷案内処前で、「雑司が谷未来遺産1周年記念植樹式」が行われました。南池小からは、校長先生や5・6年生の先生方、5・6年生の代表児童が出席しました。代表児童による挨拶では、雑司が谷の伝統・文化を引き継いでいく強い想いを伝えました。その後、参道に19本目となるケヤキを植樹しました。



植樹式の記念写真

